

道の駅の中核施設

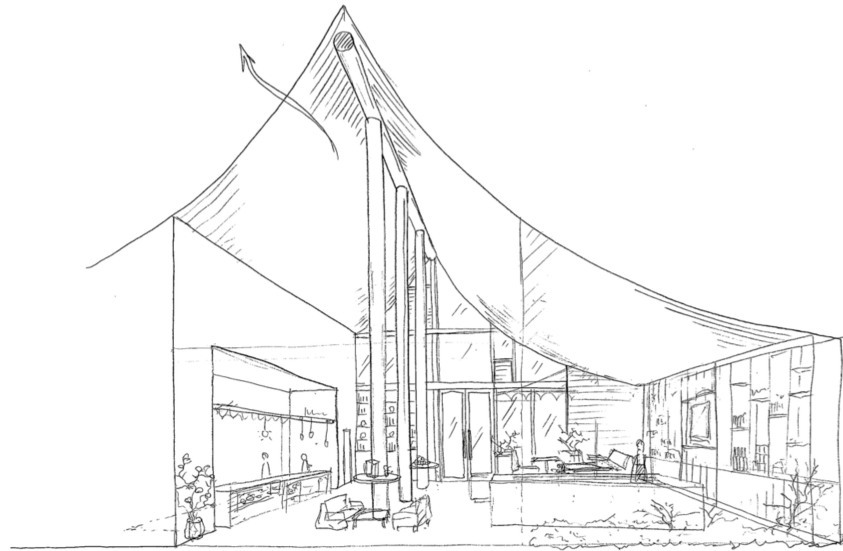
～3つの小屋と3つの庭の連続性から生まれる多様なシーン～

道の駅の中核施設として、物販施設、飲食・情報発信施設、飲食施設のそれぞれを3つの別棟で計画しました。サーカステントを連想させる小屋が並ぶ外観を施設のアイコンとし、それぞれの間にできる外部空間に多様なにぎわいや風景を生み出しました。

施設の形態的特徴のひとつである木の外壁は兵庫県産の杉材を利用しています。また、テーブルなどの什器には行政の協力を得て、六甲山の間伐材を利用し、地産地消を促進しています。

地域産材を有効利用することで「水資源の涵養」「土壌の保全」「風害・雪害への耐力向上」「生物の多様性の向上」などの効果を期待して計画しました。

用途 : 道の駅
延床面積 : 596.84㎡



コンセプトスケッチ



西から見た外観 左が情報発信棟で右が飲食棟



情報発信棟内観



物販棟の内観 ディスプレイは六甲山材の間伐材を利用



物販棟と情報発信棟の間にある中庭 右側奥には温泉水を利用した足湯がある

